

2018年夏、あの唯一無二のピアノニズムが体験できる。ありがとう、エリック。

来日50周年特別公演

エリック・ ハイドシエック

with
カメラータ・ジオン

2018年7月7日(土)

14:00開演(13:30開場)

昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館) 大ホール

共演:田部井剛(指揮)、カメラータ・ジオン



オール・モーツァルト・プログラム

ピアノ協奏曲第14番
変ホ長調 K.449より第2楽章

ピアノ協奏曲第16番
ニ長調 K.451より第2楽章

ピアノ協奏曲第12番
イ長調 K.414より第2楽章

ピアノ協奏曲第21番
ハ長調 K.467より第2楽章
「みじかくも美しく燃え」

ハイドシエック独奏 他

S席¥4,000 A席¥3,000
高校生以下¥1,000

2018年1月20日(土) 一般発売

【チケット取扱い】

昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館)

027-221-4321

e+(イープラス) <http://eplus.jp>

チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:102-905]

主催:前橋市、一般財団法人前橋市まちづくり公社、コンサートイマジン

後援:群馬テレビ、上毛新聞社、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)

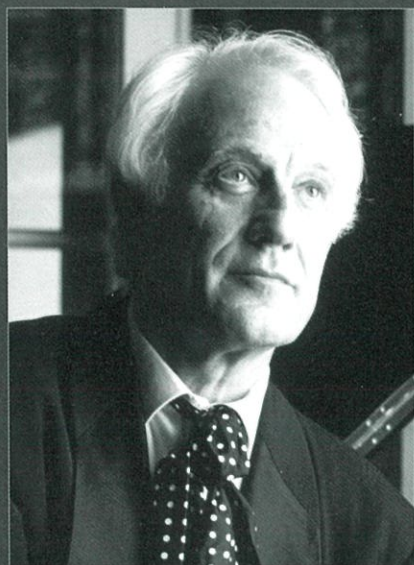
お問合せ:昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館) 027-221-4321

コンサートイマジン 03-3235-3777(日祝除く10-18時)

※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。 ※事情により曲目が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

最後の巨匠の帰還

ハイドシェックが3年ぶりに日本の地を踏む。フランスが生んだこの天才ピアニストは、60年以上にわたるキャリアの中で数え切れないほどの感動と驚嘆を生み出してきた。80の齢を越えた今でも、その両手からは眩く瑞々しい楽音が自由かつ創造的に解き放たれる。3年ぶり、来日から50年を迎える節目となる今回の公演は、自身が「いま一番実現させたいプログラム」と熱望するモーツァルトの協奏曲集。共演は若き盟友・田部井剛と、ここ前橋を拠点に活動を展開し、その美しく緻密なアンサンブルが高い評価を得ているカメラータ・ジオン。この三者とモーツァルトという組み合わせは、その録音がフランスのアンテグラル社から全世界で発売されるなど、正に折り紙つき。七夕の午後に再び一同に会する音楽家たちのステージにご期待ください！



エリック・ハイドシェック ピアノ

Eric Heidsieck, Piano

1936年、フランス北部の古都ランスを代表するシャンパン王シャルル・エドシック家に生まれた。

アマチュア・チェロ奏者の父とピアニストの母という音楽環境の中、第二次世界大戦中に幼少時を過ごした。その間、公の演奏会が困難な状況を背景に、エドシック家では当時の著名な演奏家を招き多くの演奏会が開かれ、ハイドシェックは間近で彼らの音楽性を吸収。特に名ピアニスト・名教師として名高いコルトーに才能を見出され、6歳より本格的な勉強をはじめた。

52年、パリ高等音楽院に進学、54年首席で卒業。この間、バスクール・ドゥ・ゲラルディやマルセル・シャンピに師事した。

55年1月にガヴォー楽堂でリサイタル・デビュー。同年に行われたパリ・シャンゼリゼ劇場でのリサイタルでピアニストとしての地位を確立。60年、アメリカでリサイタル・デビュー。以降、旧ソ連、イギリスを始め、世界各国で、リサイタルや著名なオーケストラとの共演を行っている。

60年代のハイドシェックは、特に「モーツァルト弾き」として、数々のコンチェルトをレコーディングしている。コルトーには、その死の年(62年)まで指導を受け続けた。このコルトー直伝の個性を優先する演奏法は、現在も彼の中で脈々と息づいている。

これまでにリリースされたCDは数多く、特に愛媛県宇和島でのライブ録音は大ベストセラーとなる。

また後進の指導にも力を注いでおり、リヨン音楽院教授を17年間務めた他、ヨーロッパや日本の各地で公開レッスンをやっている。

日本においては、68年の初来日以来、真摯な姿勢で音楽の隠れた魅力を引き出す凄演で人々を魅了。21世紀に入ってからも、日本フィル、札幌響、スロヴァキアフィルなど国内外のオーケストラとの共演、精力的なリサイタルツアー、草津夏期国際音楽祭への参加、旧譜の再発売など円熟の境地を迎えて尚も衰えぬ活躍は聴衆を沸かせ、新たなファンを獲得した。2018年夏、初来日から50年の節目にハイドシェックはやって来る。

カメラータ・ジオン

Camerata Jion

2003年に結成された室内管弦楽団。カメラータ・ジオンとは「音をいつくしむ仲間たち(慈音)」という意味を持つ。群馬を本拠地に、関東一円の演奏家で構成されている。これまでにヴァイオリニスト川島成通、世界最高齢現役チェリストであった故青木十良、ピアノの巨匠エリック・ハイドシェック、元・ムジチ合奏団コンサートマスターF.アゴスティエーニ、バノハ弦楽四重奏団、チェロの巨匠クリスティエーニ・ワレフスカ等と共演。チームワークの良さと温かな響きに、また特にモーツァルトの演奏には高い評価を得ている。ハイドシェックとは田部井剛指揮の下2005年以降共演を重ねている。モーツァルトのピアノ協奏曲第17番を録音、2005年に仏アンテグラル社より全世界で発売された。



田部井剛 指揮

Tsuyoshi Tabei, Conductor

早稲田大学商学部卒業。東京音楽大学指揮科研究生修了、東京芸術大学指揮科卒業。東京芸大在学中の1999年、日本フィル公演にてハイドシェックと共演。氏より「ヤング・トスカニーニ」と讃えられ、以後日本における重要なパートナーとして共演を重ねている。自身が主宰する室内合奏団「カメラータ・ジオン」との公演はライブ録音され、2005年に仏アンテグラル社よりリリースされている。

これまでに日本フィル、新日本フィル、東京フィル、東京シティ・フィル、群馬響、東京佼成W.O.に客演。2006年にはチェコの名門、ターリヒ室内管とモーツァルトの交響曲を録音、キングインターナショナルよりリリースされた。

また、ピアニストとしての評価も高く、F.ドレシャル(ウィーンフィル首席チェロ奏者)をはじめ数々のソリストと共演、コントラバス奏者白土文雄の2枚のCDに鍵盤奏者として参加している。2009年上毛芸術文化賞受賞。



エリック・ハイドシェック 公演情報

2018年6月26日(火) 19時開演(18時開場) ザ・シンフォニーホール(共演:ザ・シンフォニーホールチェンバーアンサンブル)

2018年7月3日(火) 18:30開演(17:45開場) サントリーホール大ホール(イマジジン七夕コンサート スペシャルゲスト)

2018年7月8日(日) 15時開演(14:30開場) 東京文化会館小ホール(共演:カメラータ・ジオン)